

## 「歯科の検査にまつわる状況」

厚生労働省医政局歯科保健課長 小椋正之

「経済財政運営と改革の基本方針2022」、いわゆる骨太の方針が令和4年6月7日に閣議決定され、歯科に関する記載は「全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の具体的な検討、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実、歯科医療職間・医科歯科連携を始めとする関係職種間・関係機関間の連携、歯科衛生士・歯科技工士の人材確保、歯科技工を含む歯科領域におけるICTの活用を推進し、歯科保健医療提供体制の構築と強化に取り組む。また、市場価格に左右されない歯科用材料の導入を推進する。」とされた。この中に「生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の具体的な検討」という文言が記載された。

令和5年度予算案の概算要求が令和4年8月25日に発表された。この概算要求には、骨太の方針を踏まえ、自治体や職域等において、簡易に歯周病等の歯科疾患のリスク評価が可能であり、歯科医療機関への受診につなげることができる方法の研究・開発を支援するための「歯周病等スクリーニングツール開発支援事業」が新しく盛り込まれた。

当日は厚生労働省の概算要求等、歯科の検査にまつわる状況を概説する予定としている。

### <略歴>

1994年3月	長崎大学歯学部卒業
1995年3月	国立公衆衛生院専門課程修了
1998年3月	岡山大学大学院歯学研究科修了
1998年4月	厚生省入省
1999年4月	富山県厚生部健康課（副主幹）
2001年4月	厚生労働省医政局医事課試験免許室（試験専門官）
2008年7月	近畿厚生局医事課（課長）
2011年8月	厚生労働省医政局歯科保健課（歯科口腔保健推進室長併任）
2016年4月	厚生労働省保険局（歯科医療管理官）
2021年7月	厚生労働省医政局歯科保健課（課長）
現在に至る	

## 「産業界におけるデータ活用の現状とこれから」

株式会社ミットヨ

営業サービス本部 営業戦略企画部 営業戦略課

鈴木 誠

1934年創業の株式会社ミットヨは長年に渡りマイクロメータやノギスなどの測定工具から三次元測定機に代表される計測システムまで、主に寸法を精密に測る測定機器を製造・販売し、機械・金属加工を手掛ける工場などのお客様が生産される製品の品質維持、向上に貢献をしてまいりました。

モノづくりの世界ではよく“測れないものは作れない”と言われており、製造したものの出来栄を確認する作業である計測は必要不可欠なものと認識をされ、そのニーズの高精度化、多様化、複雑化に伴い測定機器とそれらを利用した測定作業そのものが発展をしてきております。

測定機器に信頼性が要求されるのはもちろんですが、計測に最初に求められたのは品質の記録でした。そしてそれはコンピュータの発展などと共に効率化、省力化が進展しています。次に求められたのは計測データの活用です。特に量産の工場では測定データを時系列的に継続して取得することでその傾向を管理し、品質を維持させようとする手法が一般化されています。

ここまでは現在広く採用が進んでいますが、次に求められている課題は蓄積された個々のデータを関連付け、解析することによって常に品質を一定の水準以上に保ち、それを阻害する要因があれば早い段階でその要因を取り除くことで不良が顕在化する前にその芽を摘み取ってしまおうという取り組みです。これはいわば健康診断を毎日実施するようなもので、常に健康体を維持しようとする“予防保全”という考え方です。

この考え方自体は以前からあったものですが、近年各種データやセンサのデジタル化、ネットワーク化が進んだことにより実際の現場に投入されるようになってきました。

以上、口腔検査とは全く異なる業界でのデータ活用事例のご紹介ですが、多くのデータを収集、解析することで不良＝健康を害する要因をいち早く見つけて取り除くという方向性については共通するものがあるかもしれません。皆様の研究のご参考となれば幸いです。

### <略歴>

1987年4月入社、国内の営業部門へ配属され愛知県、東京都、千葉県、静岡県の各拠点でお客様との接点の最前線となるエリア管轄の営業とマネジメントを担当。2017～2020年はインド・デリーの現地販売・サービス子会社へ出向し主に日系企業との窓口と現地従業員への教育を担う。同年7月に日本へ帰還し新規市場の調査・開拓の任につき、2022年1月の組織変更に伴い現職。

## 「各種検査機器の検査結果スキャンニングと自動入力」

株式会社 MEDIC 齋藤一彦

各種機器の検査結果はメーカー間の共通の接続方法がない、方法があっても公開されていないなどの理由から検査結果を電子カルテに自動入力するという手段がありません。電子カルテにデータを手入力したり、検査結果を印刷しPDF化するしかないのが現状です。そこで弊社は、各種検査機器液晶部の検査結果をハンディスキャナーでダイレクトにスキャンニングし、検査結果をデータとして取り込む手法を開発しました。液晶のデジタル数字・7セグ数字問わず読み込みできます。検査結果は、各種ソフトのデータ入力ボックスにダイレクトに自動入力できます。機器ごとのスキャンニングしたデータ結果を1テキストファイルで保存しますので他メーカー様がこのファイルを参照されて自社データとして活用していただけるようになっております。

医療画像データがDICOM形式であるように、検査結果もそうするべきと思いますが、メーカー間とはいえっても多種にわたる企業様があります。検査結果データの置けるサーバーのID・パスワードを共通化も不可能なことからみて、政府主導の仕組を持たない限り検査結果は、すぐに解決しない問題です。

### <略歴>

リコー電子機器販売株式会社・株式会社沖メディカル・株式会社ヨシダで歯科ソフトウェアの販売  
平成19年株式会社MEDICの経営を引き継ぎ歯科ソフトウェアの開発・販売を行う

「口腔検査を歯科臨床で活かし定着させるために～歯科検査分野のDXに向けての準備～」

株式会社FOD 代表取締役 漆原譲治

・「質の高い医療」は医療の供給側と受領側の双方のニーズであり、その実現のためには「各種検査」は不可欠である。得られた「検査データ」は歯科医師、歯科衛生だけでなく、医師、看護師、管理栄養士などとの情報共有の共通言語とすべきである・

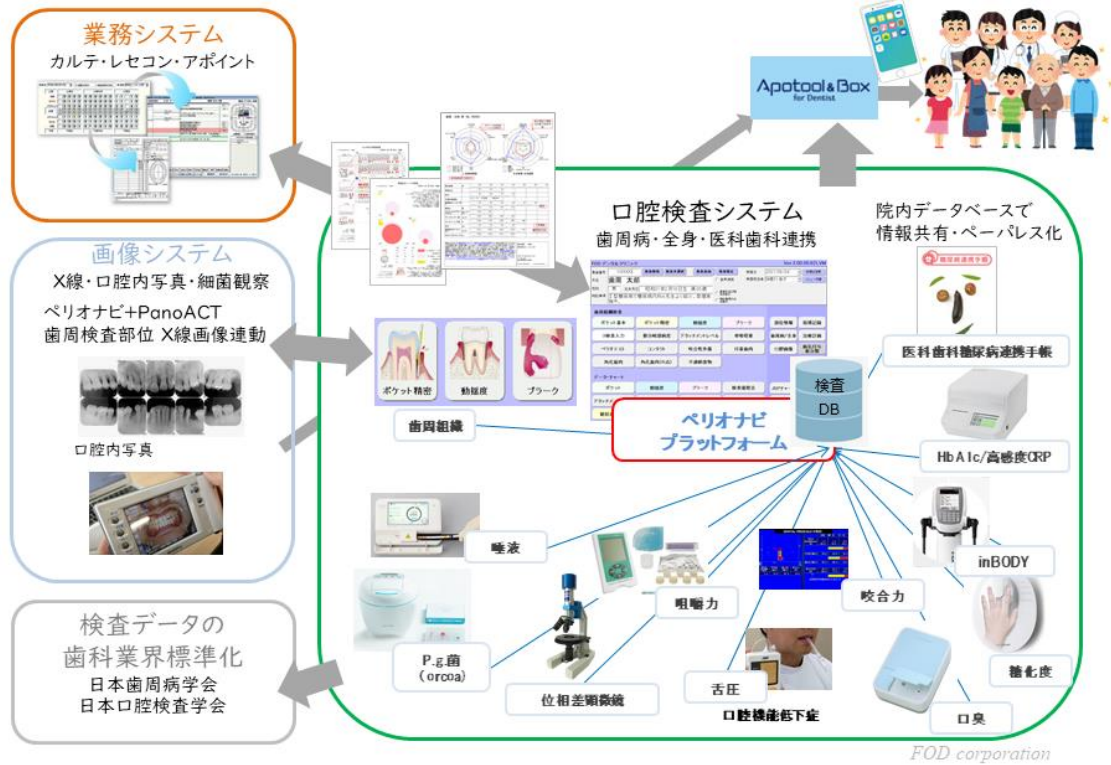
と、本学会ホームページでは述べられております。

一般的な歯科診療所では、医科の病院の HIS・RIS・PACS のような情報連携システムは無く、検査技師もいません。そのような中で、各種検査を日常的に実施し定着させるためには、検査に携わる人、時間、費用を考慮し、検査データの入力や分析、管理、カルテ、レセコンなどへの出力などを、簡便かつ容易にした院内情報の横断的な仕組み作りが必要です。併せて、検査機器、システムメーカーへは、検査データの標準化に準拠したデータ出力と共有化への合意と協力とを得る働きかけも重要です。

弊社は本学会員として、且つ、検査データを取り扱う企業として、この問題に長期的に取り組んでおり、今回、その一例を報告いたします。

- ・検査データの規格化からデータ化→IT化→DX化へ
- ・検査システム、カルテ、レセコンの横断的連携の必要性
- ・情報共有、データ活用のためのプラットフォーム(Field of Dreams)の構築と公開
- ・歯周病と全身管理の検査システムのグループ化の事例
- ・今後のあるべき方向性

# 口腔検査の活用と定着のためのペリオナビ・プラットフォーム



## <略歴>

1979年に 而至歯科工業株式会社（現 ジーシー）に入社。

歯科医院事業計画、経営シミュレーションなどをソフト化し IT 営業を全国に展開。シーメンス事業部を経て、関連会社のジーシーデータランド代表取締役となり、ペリオナビゲーショ、デンタル IQ さん、フォトマネージャー、歯科健診ソフトなどを製品化。医療情報学会では歯周検査データの仕様公開により、主要レセコンメーカーとのデータ交換を推進。日本歯周病学会会員として、資格認定申請ソフト JSP-Chart を開発して学会に提供。歯周検査データの標準化を支援。

2012年に早期退職し、株式会社 FOD を創業。JSP-Chart とペリオナビの開発も継続。